ＪＲ総連通信

2011年10月14日　№1023

全日本鉄道労働組合総連合会(ＪＲ総連)　http://www.jr-souren.com/

レールウェイはヒューマンウェイ
参議院議員
田城 郁

原発のない未来を子どもたちにつなぐＪＲ総連討論集会

子どもたちに原発のない未来を

▲ ご講演いただいた常石教授。福島第一原発事故が起きる１年前、『原発とプルトニウム』の書籍をすでに執筆･発刊され、「長崎原発 5000 発分のプルトニウムを持っている日本。この危うさを直視せよ！」と警鐘を鳴らされている。

ＪＲ総連は10月13日､「原発のない未来を子どもたちにつなぐＪＲ総連討論集会」を東京・品川区立中小企業センターで開催した。「脱原発」を掲げ、原発をテーマにした今年２回目となる学習会には、神奈川大学の常石敬一教授をお招きし､『原子力発電技術と核燃料サイクルの神話』について講演をいただいた。

討論集会には組合員ら約100名が参加。90分の講演ののち、もんじゅを抱える福井や再処理工場の大間・東通などの下北半島周辺、浜岡など、現状と各単組の取り組みや感想を出し合った。子どもたちの未来のために、ＪＲ総連の掲げる脱原発の実践が参加者に問われた集会となった。（講演記録は後日、冊子作成）

【講演を終えた常石教授から】

ソ連が崩壊した1991年の５年前にチェルノブイリ事故が起きた。日本の５年後はどうなっているのか。原子力村の解体が新しい日本をつくっていく上で必要ではないかともいわれている。地震や福島第一原発の事故から何も学ばず、同じことを繰り返していくのでは、とうてい子どもたちに「原発のない…」どころではなく、子どもたちが希望を持って勉強したりからだを動かしたりという社会は築けない。５年後の日本へ、みなさんが子どもたちに恥じないような行動を、これからしていかなくてはならない。

省エネ開発は、地味だけど大事。何十年も使った原発を、きちんと解体した例はない。54基もある原子力発電所を安全に解体する技術はまだない。これからいくらでも解体の技術開発はできる。この技術を世界にも活かすべき。原子炉を解体するのは地味な仕事。誰もやりたくないかもしれないが、こうした位置づけをきちんとすべき。

そして何よりも核廃棄物の処理をしなくてはならない。原発事故で私たちは未来を先食いしている。子どもたちが本来使うスペースを占領し、綺麗な空気を汚染している。子どもたちにちゃんとした未来を残すために、脱原発、原発を止めて､安全な廃炉に持っていく､その道筋を考えていくことが福島原発事故で私たちに課せられた課題だ。私も少なくとも５年間は生きなくてはならない。皆さんは、そのとき、どれだけ子どもたちの未来を残せるために活躍しているかだ。